

令和8年春 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

修了生の皆さん、学位取得、誠におめでとうございます。また、これまで皆様を支えてこられたご家族の皆様、そして関係者の方々へ、医学薬学府の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。皆さんが努力と研鑽を重ね、立派な学位論文をまとめられたことに、敬意を表します。

皆さんはこれから、さらに研究を深める方、臨床医として研鑽を積む方、あるいは企業でその手腕を発揮する方など、多様な道へと歩み出されます。これからどのようなキャリアを歩むにせよ、皆さんが、大学院でいろいろな問題を解決しながら研究を進め、その成果を論理的にまとめ上げた経験は、皆さんの確かな力となり、将来を支える柱となると確信しています。

科学とは何かを定義するのは、実はとても難しいのですが、私には哲学者のカール・ポパーの考え方が一番しっくりします。ポパーは「これしか答えがないと思ったとき、それはその理論も、解こうとした問題も、まだ本当には理解できていないサインだ」と言いました。皆さんは、科学は絶対的な真実や理論を見つけるものであるとお思いではないでしょうか？ところがポパーは、間違いだと示すことの出来ない理論は科学ではないと考えました。科学は、理論を絶対に正しいと証明することではなく、どのような結果が出ればその理論が間違いだと分かるかがはっきりした理論を作り、それを吟味し、さらに新しい理論を作って、また吟味・検証するというサイクルを続けていくことだと考えました。また、科学とは仮説を想像力豊かに提唱し、それを検証するという進化的プロセスだとも述べています。つまり、よい科学は、様々な方法で確かめることができ、もし間違っていれば、反論あるいは反証することが可能な理論を作ることです。科学とは正しいことを見つけ出すものだという一般的な考え方からすると、ちょっと意外に思うかもしれません。しかし、実際に皆さんが大学院で行ってきた研究を考えてみて下さい。研究成果は最終的な答えではなく、まだ答えられていない問いや、新たな疑問がたくさん生まれたのではないのでしょうか。ポパーの考え方に立てば、新しい疑問や次に確かめるべき問いをたくさん生み出す研究がよい科学と言えます。これから皆さんは、どのような仕事に就かれても、日常的に様々な問題や

疑問を解決していくことになると思います。そのとき、大学院で学んだ、粘り強く結果を得ること、その結果からさらに確かめることの出来る新たな問いを生み出すということが、間違いなく皆さんの仕事を進化させる力となるはずです。その力を存分に発揮し、皆さんが世界の様々な場で大いに活躍されることを心より祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

2026年3月23日

千葉大学大学院医学薬学府長 眞鍋一郎

